

何かをはじめたい
高知大生のための
活動ガイドブック

チャレンジ
の
ススメ



コラボレーション
サポート・パーク

通称
コラパ〜

コラパ〜は みなさんの“チャレンジ”を 応援します。

大学生活は楽しいですか？

もしも、ちょっと物足りなさを感じているなら、

もう少し何か始めてみたいと感じているなら、

コラパ〜に来てみませんか？

コラパ〜では、みなさんにぜひチャレンジしてもらいたい

活動プログラムをいろいろご用意しています。

そして、ただご用意するだけでなく、

教員とコラパ〜スタッフが

みなさんのチャレンジをサポートします。

何かをはじめたいのなら、

まずはコラパ〜に来てみませんか？

高知の魅力もっと知りたい学びたい

高知の魅力を学ぶ・楽しむ1日だけのSTUDYツアー

P3.4

えんむすび隊

こんな人向き▶高知の魅力も課題もディープに知りたい

仲間と一緒にトライ!

「やってみたい!」を1年間でカタチにする

P5.6

コラボ考房プロジェクト

こんな人向き▶社会にアクションおこしたい、モノづくりしてみたい、ツアーを企画してみたいなど

3人一組で3週間、仕事を通してチーム力を磨く

P7.8

SBインターンシップ

「SB」=Society Based

こんな人向き▶人間関係について学びたい、働き方を学びたい、自分の視野を広げたいなど

プロから学ぶ

地域と向き合うプロの現場を体験する

P9.10

UBCインターンシップ

「UBC」=University Block Coordinator

こんな人向き▶地域課題解決に関わる仕事をしたい

高知の社長から仕事と人生を学ぶ

P11

社長インターンシップ

こんな人向き▶企業活動をより深く知りたい、高知のいろいろな企業を知りたいなど

高知のフードビジネスに社会人と挑む

P12

土佐FBC部分受講・ 土佐FBCグローバルプログラム

「FBC」=Food Business Creator

こんな人向き▶食に関わる仕事に就きたい、食を通じて高知を盛り上げたいなど

地域の未来をつくるローカル・イノベーターになろう

P13.14

地方創生推進士

地方創生推進士とは?称号を取得する方法は?





高知の魅力を学ぶ・楽しむ 1日だけのSTUDYツアー

「えんむすび隊」は高知大学が主催する高知大生のための「地域で学ぶ、地域を学ぶ1日だけのSTUDYツアー」です。

このツアーはそのつど参加者を募集しています。高知県内のさまざまな地域に足を運び、その地域の魅力や課題に触れる体験は、“見学”だけにとどまらない学びの機会となっています。

大学の中にいるだけでは知りえない出会いが待っていますよ。

1日の流れ

長岡郡本山町の棚田へ稲刈りと田んぼアート 아이디어を考えに行きました



9:00 バスで現地に到着。
あいさつはしっかりと!



稲刈り作業のコツを教えてくださいます。



いよいよ、実践!



12:00 本山町のお米を使った
手作りおにぎりで
ランチタイム!



地域の方々と
ワークショップ

農作業や地域交流、イベントのお手伝いなど、高知県の西から東まで、えんむすび隊のツアーはこれまで104回実施されています。※平成29年3月

過去の体験ツアー

- 村民大運動会を盛り上げる!
- 山芋植えて田舎の暮らしを知る
- ひな祭り準備のお手伝い
- 街並みを歩いて宝探し
- 観光プログラム体験ブラッシュアップ
- 地域の特産品作り体験
- 現代アートに触れる など

授業では学べない地域の方々の 想いを感じ取ることができました

農林海洋科学部農芸化学科2年 南 彩花

私は、「農業」と「地域活性化」に興味があるので、えんむすび隊の企画にたくさん参加しました。えんむすび隊は気軽に参加することができ、様々な地域に入って幅広い活動を行うので貴重な体験がたくさんできました。地域の方々と一緒に昼食を食べている時間やワークショップの時間など、地域の方とお話をする機会が多くあり、地域の方々の想いを感じ取ることができました。大学の授業では学ぶことができないそれぞれの地域の魅力を学ぶことができてよかったです。

リアル VOICE 1



リアル VOICE 2

県内の各地を訪れてみると 一般的に言われていることが必ずしも 当てはまらないことを実感

地域協働学部地域協働学科2年 中崎志保

えんむすび隊は高知県内各地を訪れ、現地の方との交流などを通して各地域の特徴を知ることができます。少子高齢化や限界集落など明るい将来を連想しにくい言葉を用いて紹介される高知県ですが、集落ではこちらが羨ましくなるような楽しい日々を送っていたり、一般に言われていることが必ずしも当てはまらなかったりするということを実感しました。また、えんむすび隊は地域を知れるだけでなく、お財布に優しいのもいいところですよ!



15:30 最後はみんなで記念の一枚!

受け入れ団体の声

えんむすび隊を受け入れたことで、地域の生産者の方がとても楽しくコミュニケーションをとるようになりました。学生の学ぶ姿や農作業に取り組む姿も農家さんたちにとってすごく良い刺激となりました。また、田んぼアートの新たなアイデアと発想にすごく勉強になりました。地域の事を知ってもらえたこともすごく良かったです。

(一財)本山町農業公社





「やってみたい!」を1年間でカタチにする

「自分のアイデアで、高知をもっと元気にしたい!」、「やってみたいことがあるけれど、何から始めていいかわからない…」など、さまざまな思いを持っている学生の活動をサポートする仕組みがコラボ考房プロジェクトです。企画を整理し、カタチにしておくことは言うは易く行うは難しです。充実した経験ができるよう、教員、スタッフとも学生たちを応援しています。

ただいま進行中のプロジェクト

●リボン

シニア世代が輝くハレの場をプロデュース!

リボンは、できたばかりの新しい団体です。私たちは地域と大学を繋ぐことをモットーに活動しています。現在、シニア世代の方のハレ舞台に重きを置いて、敬老の日やシニア世代の方のためのイベントを考え、成功させることを1つの目標とし、試行錯誤しています。まだまだ未熟な団体ですが、これから頑張っていきます!!



●安田(あんだ)の食応援隊

“食”を切り口に、地域の魅力を発信する!

地域の食を探求し、自分たちなりの「食のあり方」を考えていくことを目標としています。安田町の郷土料理や農産物について取材を通じて情報を集め、自分たちが感じたことや学んだことをセットにして記録を残し情報を発信することで、安田町の新たな魅力を発信することに奮闘中です!



●ほたる飛ばし隊

ほたるで大学と地域をつなぐ

ほたるを通して地域と大学をつなぎ、ほたるの生態や保全活動について知ってもらうためほたるの飛翔地調査やほたるの授業、ほたるに関する勉強会などを行っています。ほたるの存在を身近に感じてもらえるようにこれからも活動を頑張っていきます!



企画の
実施に向けて
サポートが
受けらる

支援教員やコラボスタッフをサポート。不安要素を解消しながら進められます。

1年間、支援教員とコラボスタッフ、企画のブラッシュアップやチーム作りのサポート、校費による支援などを行います。また、定期的にかかれる「活動ブラッシュアップ会」は、地域で活躍する社会人を招き、皆さんの企画をブラッシュアップ。学びの多い時間を過ごせます。



あだたん!!!!

「あだたん」とは「器に収まりきれない」という意味の土佐弁。NPO法人日高わのわ会さんと一緒に高知県日高村で活動している高知大学の学生団体です! 村の駅ひだか内にある「とまとすたんど」というお店で商品の販売、村のPR、イベントの企画などを行っています。



これからも地域に笑顔を増やしたい!

“何かやりたい4人”が奇跡的に集まって、コラボに相談に行ったり、ゼミでお世話になっていた先生にアドバイスを頂いたり、NPO法人「日高わのわ会」との出会いがあったり、いろいろなことが重なったおかげで今のあだたん!!!!があります。当初はまさかこんな風に、活動を続けていけるとは想像もしていませんでした。コラボ考房プロジェクトチームとして活動した、たった一年間のうちに、のびのびと活動ができる楽しさ、それを続けていくことの難しさ、前向きに真面目に続けることによって得られる信頼、続けられ続けるほど大きくなる責任など、多くの学びがありました。これからも、みんなで話し合いながら協力して、地域のニーズに丁寧に応えることを大切にしつつ、自分たちも楽しんで、日高村に笑顔を増やせるようなチームであるべく、精進します。



リアル VOICE 1

人文学部
社会経済学科
4年
宮本佳奈

思いがカタチになったプロジェクト



Book for Happiness

お金を気にせずに学生が学業に動かしめるようにするために、教科書融通ネットワークの構築を目指し団体を結成。使わなくなった教科書を学生から広く集め、新学期など教科書が必要な時期に学生に配布している。また、朝倉、物部キャンパスに「教科書ポスト」を設置し、(岡豊キャンパスにも設置予定)教科書の回収を実施。



たった一年でしたが、ものすごい量の人生の下積み経験ができました。

初め、私は団体活動が大の苦手な人で、一人でやった方が効率も出来も良いと考える自惚れの強いばかりでした(笑)。そのため、活動でも一人で突っ走っては、負担が積み重なり団体からの脱退も考えるようになりました。そこで、私は思いきって活動について考えるのを一切やめ、メンバーの意見を積極的に引き出すようにしてみました。すると、今まで発言しなかったメンバーから次々とアイデアが提案され、個人のアイデアなんかよりもずっと素晴らしいものが出来上がりました。これを体験して、よかれと一人で励めば励むほど、団体の可能性を自ら摘んでいたという事実で驚かされました。私は学生団体の活動によって、社会におけるサブカルチャーのようなものを学べたと思います。そのような経験をさせてくれたコラボ考房、団体活動、メンバーに感謝しています。

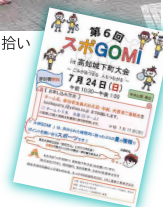


リアル VOICE 2

人文学部
国際社会コミュニティ
3年
ケイシヨウ
高木泉希



「スポーツゴミ拾い大会」の様子



スポーツ化組合

お困りごとをスポーツ化し楽しみながらボランティアすることをめざし団体を結成。ゴミを拾ってその量を競い合う「スポーツゴミ拾い大会」を年に2回開催し、第6回大会では128名の参加者がゴミ拾いを競い合った。

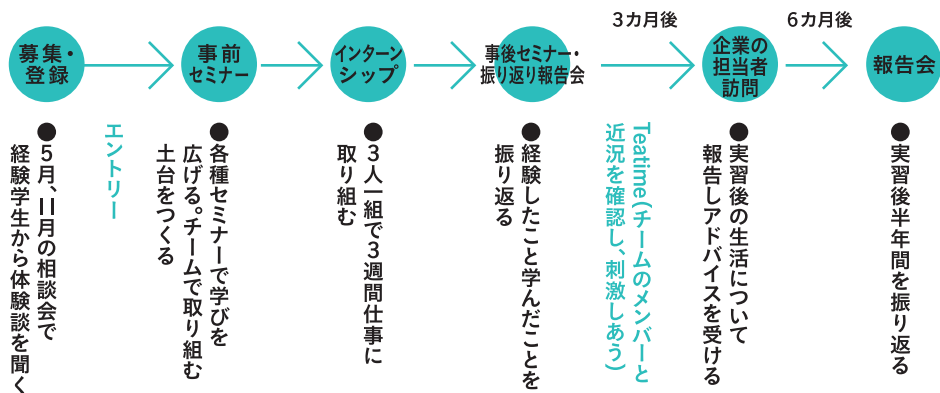


SB(人間関係形成)
インターンシップ

3人一組で3週間 仕事を通してチーム力を磨く

「SB(Society Based)インターンシップ」は、3人一組で3週間、企業の現場で業務に取り組みます。そこでは単に企業の様子や業務内容を理解するだけでなく、「働くことや他者と協働することの意味」、「自分の人生の目的や目標とそれを達成するために必要な力」について、本気で考える機会を提供します。1、2年生のうちじっくりと取り組んで、ぜひ今後の大学生活に生かしてほしいインターンシップです。首都圏での実習もありますよ！

SBインターンシップスケジュール



※個別相談は随時行っています。いつでもコラボスタッフに質問・相談してくださいね。

SBインターンシップの特徴

3人一組というところがポイント

社会に出て仕事をする際には、いかに人と協働し目標を達成していけるか、ということが重要なポイントになります。SBインターンシップは、まさに3人のメンバーと受け入れ先企業の方との協働を体験するプログラム。人との関わりから、新たな自分を発見してください！



目標設定やチーム作りのスキルを磨く

教員とともに、企業社会に精通したコーディネーターが実習に行く学生を強力サポート。実習前にはチーム作りや目標設定を、実習中、実習後には振り返りをしっかり支援。悩める参加学生の状況を把握し適切にアドバイスしてくれます。



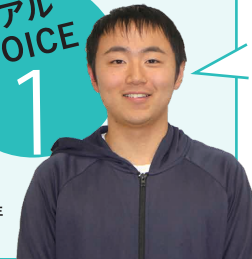
学びを約束する企業が勢ぞろい

SBインターンシップの受け入れ企業は、どの企業も人材育成に強い思いを持った企業ばかり。実習では学生チームに1人の担当が付き、ともに“チーム力”を磨きます。経営者の方も、みなさんの成長を見守っています。



リアル VOICE 1

理学部
理学科3年
浦越 諒



周りの人と関わる大切さを学びました

SBインターンシップに参加し、人と関わることで、自分の長所を知ることができました。また、短所を克服するためのアドバイスを得ることができました。例えば、話す時に笑顔や声のトーンを意識するといったことを学びました。また、私はSBインターンシップで目標を立てましたが、目標を立てて実行することで自己理解を深めることができたと考えています。こういった学びや経験は、今の学生生活でグループの代表として人の前に立つ際に、活かされていますし、また、就活、社会に出てからも役に立てることができると考えています。

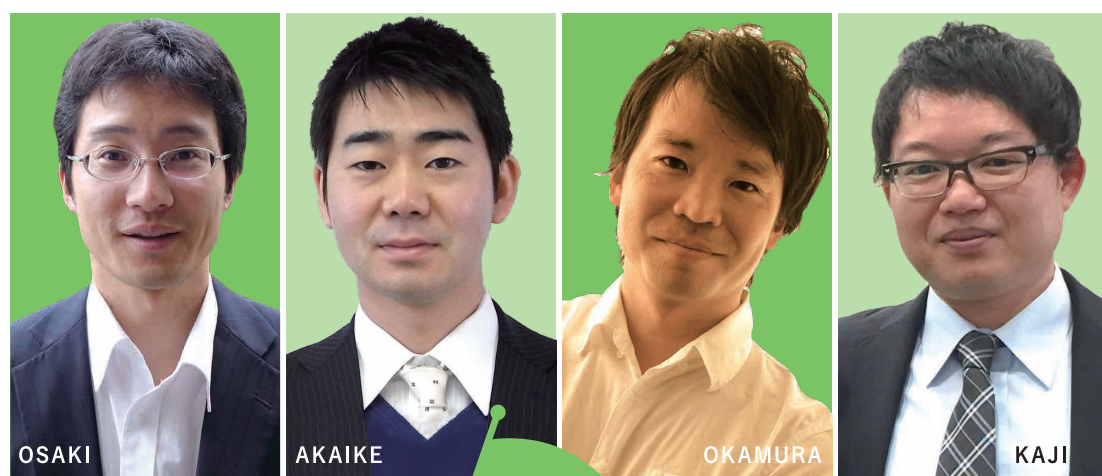
就職活動を前に、企業の選び方が変わりました

SBインターンシップ参加企業の社員さん達は、誰もが熱く、楽しそうに仕事をします。また、私たち学生の意見を積極的に受け入れてくれることもあり、そこに中小企業ならではの柔軟性を感じました。以前は漠然と「できれば大企業に就職したいなあ」と感じていましたが、この経験から、私は就職先に中小企業を選ぶようになりました。また、個性も考え方も異なるメンバーと毎日を通じ、共に課題に取り組んだ経験は自分自身と向き合うことにもつながり、大変刺激的で有意義でした。また実習前に参加した目標設定セミナーは、今後自分の人生を設計していくうえで大いに役に立つと思います。このようにSBインターンシップでは、就職活動においても、実際に就職した後も役に立ちそうな経験ができました。

リアル VOICE 2

農学部
農学科4年
米津ひとみ





地域と向き合う プロの現場を体験する

高知大学には、高知県の多種多様な課題と直に向き合い、地域ニーズと大学シーズを結び解決に向けて取り組むUBC(高知大学地域コーディネーター:University Block Coordinator)と呼ばれる4名の教員がいます。地域課題の解決に向けて、大学・自治体・地域・企業等の関係機関をコーディネートするUBCの活動を間近で見て体験できるチャンスです!

UBCインターンシップでは、ビジネスの立ち上げや支援、観光調査や地域活性化事業のコーディネートといった、UBC教員が関与しているテーマにも取り組んでいただきます。また、テーマへの理解を深めることと同時に、地域コーディネーターという業務への理解を目指します。

UBC:大崎 優

高知市・仁淀川地域担当

地域の状況を統計データに基づいて分析することが専門ですが、最近は観光振興に関する相談が多く、話し合いなどに参加させていただき、地域の方と一緒に振興策を考えています。データで地域を見たい学生、観光振興に関心がある学生などなど、お気軽に。

UBC:岡村健志 幡多・高幡地域担当

自治体や企業などが実施する地域プロジェクトの企画・開発や運営支援を行っています。市町村ホームページ、ネットショップ、食品工場や農業ビジネスなど、自治体や企業と一緒に事業企画やPDCAサイクルを実施します。事業企画・運営またはそのサポートをやっている方、やりたい方、やる気のある方のご参加をお待ちしております。

UBC:赤池慎吾

安芸・物部川地域担当

森林鉄道などの文化財を活用した観光まちづくり、集落活動センターと連携した地域活性化に取り組んでいます。様々な地域団体の目的や思いを共有し、良い人間関係をつくり、大学シーズを活用して活動を形にしていきたいと思います。学生には、地域での振る舞い方、つながりをつくってもらい、一つでも多く自分のできることを増やしてほしいと考えています



人文学部
国際社会コミュニケーション学科
4年 仲木 礼

UBCインターンシップでは、高知県東部、中芸五カ町村が取り組んでいる、「日本遺産」申請の舞台裏を体験しています。地域と大学が提携し、地域の課題解決に取り組む目的の一つに、「これから」を生きる大学生の意見やアイデアが時として画期的で斬新であるためだと思います。しかし、見ず知らずの人に「ショートヘアの方が似合うよ」と言われても髪は切らないよう、地域に大学生の意見やアイデアを受け入れてもらうことの難しさもあります。UBCの赤池先生の業務に同行して感じたことは、地域との間に信頼関係を構築することの大切さ。またそのために継続して足繁く地域に携わることの大切さを学びました。

UBC:梶 英樹 嶺北地域担当

高知県北部の山間地、四国の真ん中に位置する嶺北地域。様々な立場の人たちが連携し合い地域を盛り上げようという勢いのある地域です。クラウドファンディングの運営サポートや特産品の開発や担い手づくり、アウトドアや森林を活かした観光サービスの創出、子ども参加によるまちづくりや学習支援、集落活動支援センターの支援など、地域の思いを結集させて新たな付加価値を生み出すべく、多岐にわたる取り組みをしています。地域の声に耳を傾けながら新しいこと、ワクワクすることに挑戦したい人、山間地域の振興に関心のある人などお気軽に声がけください。学生のチャレンジ精神を大いに大切にします。



現場で情報共有することの価値を実感しました

理学部理学科 4年 吉村葉奈

私は母子健康手帳アプリの開発をテーマに、須崎市で活動してきました。この活動を通して、物事の開発にはPDCAサイクルが非常に重要であることを学びました。現場へ足を運んで利用者の声を聞いたり、アプリのインストール率を上げるための仕掛けなど、一つの結果を手にするまでに多くの試行錯誤を重ねていました。そしてその結果を共有することで、新たな課題や目標が見えてくるのだと再確認しました。たとえ移動に長時間かかっても、その場に居合わせて情報共有することは、それだけの価値があることだと実感しました。



社長
インターン
シップ

高知の社長から 仕事と人生を学ぶ

高知県には、地域に密着し活躍する魅力的な中小企業経営者がたくさんいます。このプログラムでは、高知の課題に向き合い、日々真剣勝負の社長に、ほぼマンツーマンで“密着”同行しながら、その考え方やリーダーシップを学ぶことができます。

関心ある業界の“今”を 体験できるチャンス

製造業、加工業、建設業、サービス業等々、高知県内のさまざまな分野の企業の社長が、学生を受け入れてくれます。社長は関連業界に対し、どんなビジョンを描き、業界や自身の企業の課題をどう感じているのか、アンテナを張れば張るほど学べることは広がりますよ。

「何を学びたい？」 まずはあなたの思いから！

このインターンシップではみなさんの関心をもとに、プログラムの内容を決めていきます。「業界について学びたい!」、「トップの仕事を見てみたい」、「ゆくゆくはビジネスを起こしたいので参考にしたい」といった関心はもちろん、「進路についてアドバイスを受けるたい」といった相談にも社長は対応してくれます。まずは皆さんの思いをお聞かせください。

社長に学んだ、行動力 人文学部社会経済学科 3年 松岡明里

私はインターンシップを通して自分から絶えず積極的に行動を起こすことの大切さを学びました。私がこのインターンシップに参加した理由の一つは企業の社長さんは多くの社員をどのようにまとめ、対外的にはどのようなアクションを起こされているのか知りたかったからです。私自身学生団体の代表になり、メンバーをまとめるということの大変さを味わい、どのような方法を取れば良いかわかりませんでした。同行していて最も感じたことは、絶えず積極的に行動をおこなわれているということです。できるだけ多くの場所に出向き多くの方と交流をする。社内でも常に従業員の近くに机を並べ、できるだけ話をする。その積極的な活動の中で見えてきた発見や会社の改善点を業務に活かしていくことで会社がさらに発展していくサイクルが垣間見れました。通常のインターンシップでは味わうことのできない貴重な体験でした。

リアル
VOICE



土佐FBC
部分受講・
土佐FBC
グローバルプログラム

高知の フードビジネスに 社会人と挑む

高知大学は、高知県食品産業の発展を目指し、その人材育成のためのプログラムを実施しています。「土佐FBC(フードビジネスクリエーター)部分受講」、「土佐FBCグローバルプログラム」では、この社会人向けのプログラムを部分的に受講でき、食品産業の基本的な知識を学んだり、海外への販路開拓の現場を体験することができます。

土佐FBC部分受講

食品産業を担っていく 社会人と一緒に学ぶ

土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業※では、食のプロフェッショナルの育成を目指して、食に関わる科学・経営・技術を学べる講義が開講されています。土佐FBC部分受講では今回はこの講義の中から、食品加工学やマーケティング、等を社会人と一緒に学ぶことができます。食品業界を目指す方に注目のプログラムです!

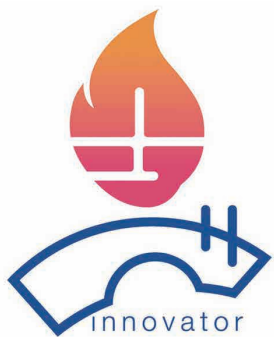
土佐FBCグローバルプログラム

高知発の食品を海外へ 届ける現場を体験

食品の海外ビジネス展開の現場を、実際に体験できるプログラムです。海外で開催される展示会への出展に関わりながら、海外販路開拓についてのノウハウを学ぶことができます。



※「土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業」について詳しくは、こちらのホームページをご覧ください。
<http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/~ckkc0001/tosafbc/>



地域への深い理解と愛情を証明する称号「地方創生推進士」

さまざまな課題をかかえる高知県に必要なのは、地域生活や文化、産業を担い発展させていく“革新力”を持った人材です。そこで高知大学は教育プログラムを整備し、地域への理解と愛情を深め地域で働きたいという志を持った学生を育成し、「地方創生推進士」として認証※しています。本誌でご紹介した活動プログラムも、「地方創生推進士」育成科目として位置付けられています。

みなさんが、地域社会への理解を深め課題解決に取り組んだ証として、そしてそのプロセスで育んだ“革新力”を証明するために、地方創生推進士の称号を取得しませんか。

※平成27年度文科省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)として高知大学が代表校となり、「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」事業を進めています。「地方創生推進士」認証制度は、この事業の一環として進められています。



地方創生推進士に認証されました

地域で初めにするのは、良好な人間関係を築くこと

人文学部社会経済学科 4年 岩瀬誠司

私が地域で活動する上で重視しているのは“地域課題は何か”ということです。私が学生サークルのコンパスで活動している商店街にも課題があります。その課題を発見するためには、多面的にまた正面から地域を見つめることが必要となります。そのために地域で初めにするのは、人間関係の構築です。良好な人間関係を築くことで、活動の幅は自然と広がっていきます。それらのことを地方創生推進士取得のプログラムの中で実際に地域の現場に入ることや、高知の企業でのインターンシップを通して学びました。今後は、地方創生推進士という資格を十分に生かしながざらに活動を発展していきたいと思



リアル VOICE 1

地域の一員として課題に向き合っていきたい

人文学部社会経済学科 4年 橋田有紗

地域課題は複雑であり、大学生がただ地域で「お手伝い」するだけでは解決できないことを実感しました。その場しのぎの労働力として人手不足を補うことは簡単ですが、それは課題に対する「対処」にすぎません。「解決」につなげるには地域への理解や愛着、型にはまらない発想力、自主性などが不可欠で、それこそが若者が強みを持って地域と向き合う「協働」であり、地域に必要な力だと思



リアル VOICE 2

「地方創生推進士」を取得するには

地方創生推進士育成科目を1st phaseから4th phaseまで修得

各phaseに配置された地方創生推進士育成科目(正課・準正課)を各phaseの必要単位分修得します。

1st phase 地域を「知る」

6単位 ※必修科目を含む
・正課(共通教育)

2nd phase 地域を「もっと知る」

4単位
・正課(共通・専門教育)
・準正課 地域講座

3rd phase 地域と「会う」

4単位
・正課(専門教育)
・準正課 えんむすび隊 (P3,4)
土佐FBC部分受講 (P12)

4th phase 地域を「体験する」

4単位
・正課(専門教育)
・準正課 UBCインターンシップ (P9,10)
社長インターンシップ (P11)
土佐FBCグローバルプログラム (P12)

(選択)

5th phase 地域と「協働する」

※必修ではありませんが、審査の際にプラス材料となります。

・正課(共通教育)
・準正課

コラボ考房プロジェクト (P5,6)
SBインターンシップ (P7,8)

称号取得のための申請は、コラパ〜へ

- ①履修状況を確認
- ②必要書類をご案内
- ③面接

認定

地方創生推進士称号授与

称号取得者には認定書と推進士の証となるバッジが授与されます。

「地方創生推進士」
認証バッジ



活動プログラムへの参加について

活動プログラムへの参加については、募集の際に学内にポスターを掲示しご案内いたします。そちらで内容をご確認の上お申し込みください。

なお、活動プログラムへの質問・相談についてはいつでも対応いたしますのでコラパ〜までお問い合わせください。

活動プログラムに関する情報はこちらをご参照ください。

文部科学省「地(知)の拠点大学による 地方創生推進事業(COC+)」
まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム

<http://www.kochi-cocplus.jp/>



学生や、地域の方、企業の方、教員などでいつも賑わっています。活動メニューの申し込みや、質問・相談などがあれば、気軽に来てくださいね。

学生会館IKUS 2階です！



お問い合わせ

高知大学 コラボレーション・サポート・パーク
(リエゾンオフィス)

〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5番1号
高知大学朝倉キャンパス 学生会館IKUS 2階
TEL:088-844-8932 FAX:088-844-8948
MAIL:cobo@kochi-u.ac.jp

平成29年6月発行 企画:コラボレーション・サポート・パーク